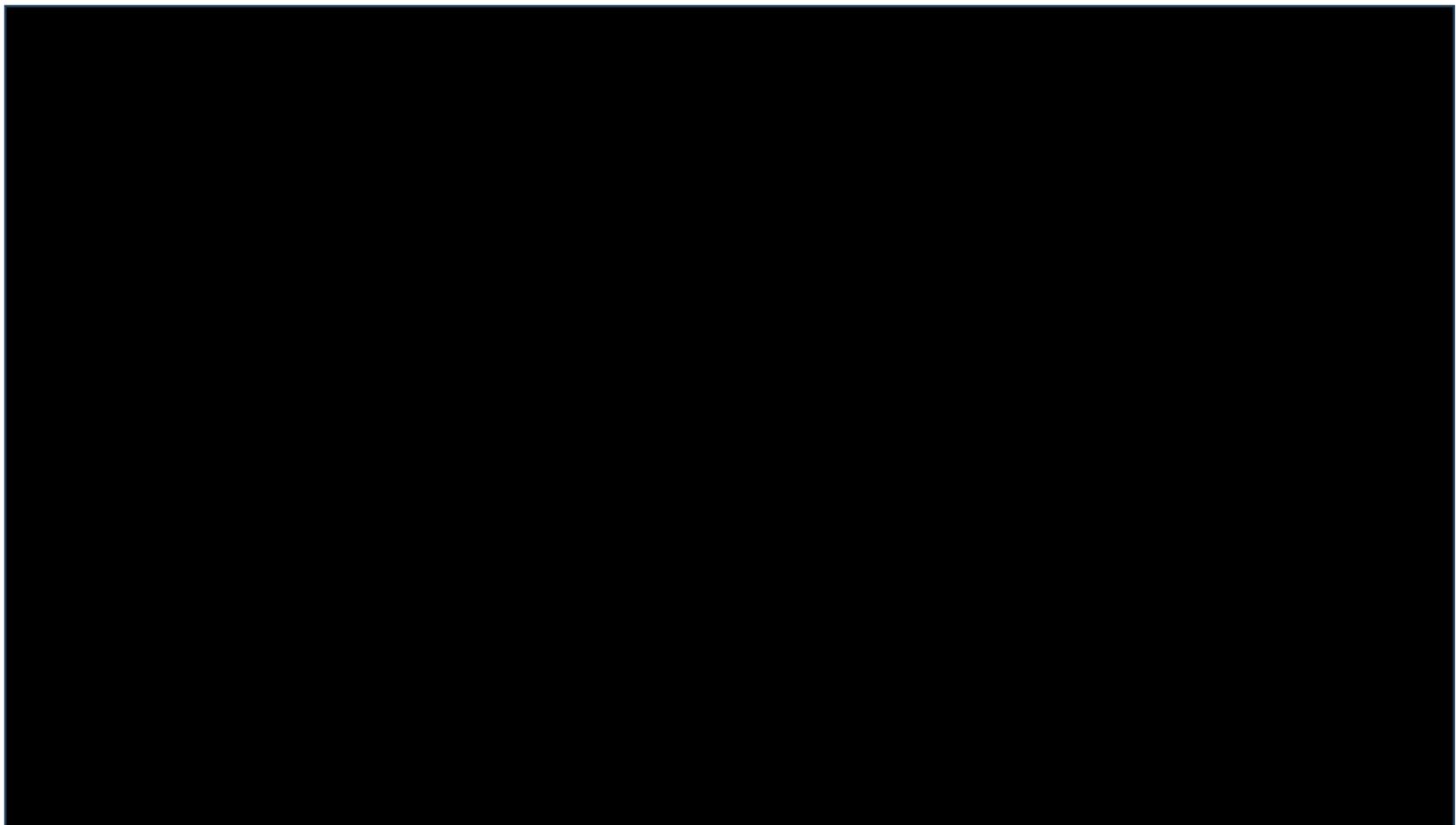


2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	中国語

次の中文を和訳しなさい。



出典

杨曾文《日本佛教史（新版）》，新华书店，2008年、7～8頁。

*問題本文は著作権法上の理由から記載することができません。上記出展箇所をご確認ください。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

中国の隋・唐時代は、日本の飛鳥時代（593–686）、奈良時代（710–794）、そして平安時代（794–1192）に相当する。この期間に、中国の仏教諸宗派や学派が次々と日本へ伝えられた。奈良時代に盛んであった仏教六宗——三論宗・成実宗・法相宗・俱舎宗・華嚴宗・律宗——は総称して「奈良六宗」と呼ばれ、直接または間接に朝鮮半島を経由して中国から伝わったものであり、後の日本仏教の発展に重要な基礎を築いた。

律宗は、唐代の高僧・鑑真（688–763）によって創立された。鑑真が招請に応じて日本へ渡り教法を伝えようとした過程はきわめて困難で、前後六度の出航のうち五回は失敗し、その間に両眼を失明した。ようやく孝謙天皇の天平勝宝五年十二月二十六日（すでに西暦754年に入った頃）に日本へ到着したのである。鑑真とその弟子たちは、日本の僧侶に戒を授け律学を伝えただけでなく、天台宗を紹介し、仏典を校勘し、さらに中国の寺院建築技術、彫刻、美術、さらには医薬学までも伝えた。

平安時代には、多くの日本の学僧が唐に渡って天台宗・密教を学んだ。最澄（767–822）と空海（744–835）はともに遣唐使に随行して入唐求法し、帰国後、それぞれ日本天台宗と真言宗（密宗）を創始した。これら二つの宗派は平安時代に最も大きな影響力をもつ仏教宗派となり、とりわけ日本天台宗は「日本文化の母」とも称され、鎌倉時代に成立した新宗派である浄土宗・真宗・日蓮宗の開祖はいずれも天台宗の出身である。

仏教が日本に伝来してから鎌倉時代（1192–1333）に至るまでの六百年以上の間に、仏教は日本社会に長期的に適応し、日本の伝統宗教文化や習俗と融合することで徐々に民族化を達成し、民族的特色をもつ仏教宗派——浄土宗・真宗・時宗・日蓮宗——が次々と形成された。これらの宗派は、中国へ渡った経験のない日本の学僧が、日本社会の状況や民衆の宗教的心理に応じて独自の教義体系を提示し、創立したものである。これは中日仏教文化交流のもう一つの形式、すなわち日本の学僧が漢訳仏典や漢文著述を独自に解釈し発展させ、漢語系仏教を再構成・再編成して日本の大地と社会に根づかせた営みである。

出題意図：

Purpose of Question：

大学院レベルの日本仏教に関する中国語の論文を正確に翻訳、理解できるかを判定すること。